

会報

無肥研だより

第12号

2021年2月1日 発行



農産展の講評をされる堀江理事長

昨年は年明け早々から、新型コロナウイルスが瞬く間に世界に広がり、我が国も政府の方針により感染拡大防止のため、色々な活動が自粛を求められて参りました。無肥研におきましても春の研究報告会や、夏の圃場見学会が中止を余儀なくされましたことはご承知のとおりであります。皆様にもご心配をお掛けいたしましたことと存じます。今回はコロナ禍の中、開催させて頂きました農産展につきましてご報告させていただきます。

★ 活動報告 無施肥無農薬栽培農産展 2020年11月15日(日)

前述のとおりコロナ禍ではありましたが、全国の生産者が丹精を込めて作られた農産物を会員の皆様は勿論、一般の皆様にも見て頂く農産展は、無施肥無農薬栽培の普及を目指す無肥研にとりまして、最大の行事であります。これだけは何としても開催させて頂きたいとの強い思いから、所轄庁である京都市の指導も頂きまして、マスクの着用・受付での検温・手指の消毒をはじめ、来場者が密にならないように作物の展示や配置を工夫するとともに、会場の換気・入場制限等、感染防止に努めて開催させて頂きました。

(1) 農産展

生産者の皆様にとりましても、コロナ禍で大変な状況の中、北は北海道から、南は九州まで53名の生産者(グループを含む)から227品の出展を頂きました。堀江理事長・白岩副理事長は、出品物を一点ずつ丹念にご覧になり、無施肥無農薬栽培は環境負荷がかからないことに加えて、健康にも悪影響を及ぼす心配のないことや、生産物のバランスが良いとお話を頂きました。例えばダイコンなら根と葉の部分を比べると、葉は小さいのに根の方はしっかりして大きいということ。これは無施肥無農薬栽培の土壌は栄養分が乏しいにもかかわらず、そういう土壌に適応して自分の子孫を最大限に残そうとしているなど、慣行栽培の圃場と違った生態系が出来ているとお話いただきました。



出品物をご覧になる堀江理事長



生産者と話をされる白岩副理事長



長期無施肥栽培の桑葉による養蚕展示室



堆英明氏によるご講演



密にならないように間隔を空ける聴講者

て、深水管理により秋勝りが実現して増収に繋がるとお話をいただきました。

なお、深水管理につきまして、詳しくお話を聞きたいとおっしゃる方がありましたら、個人又はグループを問わず、堆様が現地に出向き、ご対応下さることも可能とのことでございます。もし、ご希望があれば下記までご連絡頂ければ調整させていただきます。

連絡先 【認定 NPO 法人】 特定非営利活動法人 無施肥無農薬栽培調査研究会

担当理事 小林 正幸 TEL : (075) 751-0347 e-mail : muhiken@muhiken.or.jp

★ 今後の行事予定 **総会・研究報告会 2021年3月14日(日)**

会員の皆様にご出席頂き、当会の前年度の活動結果並びにその結果を踏まえた次年度の事業計画や活動予算等をご審議頂く会員総会と、どなたでもご参加頂ける当会の事業の柱であります、無施肥栽培の調査研究の成果をご報告させて頂く研究報告会を開催いたします。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大の状況から、会員総会は構成員である正会員の皆様に対し、昨年同様、書面表決という形でさせていただきます。また、研究報告会につきましては、オンラインによる開催とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

会報についてのご意見を、郵便、FAX、e-mailでお寄せ下さい。皆様のお力で会報を充実させていきたいと存じますので、ご協力のほどお願い申し上げます。(編集担当)

〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町106-2

【認定NPO法人】 特定非営利活動法人 無施肥無農薬栽培調査研究会

事務局 TEL : 075-751-0347 FAX : 075-334-8058

e-mail : muhiken@muhiken.or.jp URL : <https://muhiken.or.jp/wp/>

Facebook : <https://www.facebook.com/muhiken/>